

科名 耳鼻科
 対象疾患名 頭頸部癌
 プロトコール名 weeklyCDDP+RT(ショートハイドレーション)

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	…	4	5	6	7
1	点滴注	メイン	生食	500mL	ルートキープ 残破棄可	↓					
2	点滴注	側管	パロノセトロンバッグ アロカリス デキサート	0.75mg 235mg 9.9mg	30分かけて	↓					
3	点滴注	側管	ソルデム3A 硫酸マグネシウム	500mL 4mL	60分かけて	↓					
4	点滴注	側管	マンニットールS	150mL	15分かけて	↓					
5	点滴注	側管	シスプラチニ 生食	40mg/m ² ※ 500mL	120分かけて	↓					
6	点滴注	側管	生食	500mL	60分かけて	↓					
7	点滴注	側管	ソルデム3A 硫酸マグネシウム	500mL 4mL	60分かけて	↓					

★1クール7日

～MEMO～

催吐レベル4(90%以上)

day2-4にテガドロン錠を朝、昼食後に4mg/回

シスプラチニ投与後放射線照射

7クールまで

CDDP投与量の減量基準

CCr \geq 60は100%Dose

45 \leq CCr $<$ 60は75%Dose

30 \leq CCr $<$ 45は50%Dose

CCr $<$ 30は投与中止

＜シスプラチニショートハイドレーション法の適応条件＞

PS0-1

腎機能が十分に維持されている。(血清Crが上限以下かつCCr \geq 60mL/min)

心機能に問題がない。(心エコーEF \geq 60%、500mL/hの補液に耐えうる)

飲水指示に協力的

＜シスプラチニショートハイドレーション法の観察項目＞

シスプラチニ投与終了までに1L程度の経口補水を患者に促す

一方で水中毒を介した低Na血症を生じる可能性があるため過剰な飲水をしないよう患者に説明

シスプラチニ投与当日から3-5日間は尿量(又は尿回数)・体重・飲水量の記録を行う

シスプラチニ投与直後から2時間の尿量(1L/2hを確保)に留意し、追加の利尿剤を検討。

投与開始～シスプラチニ投与終了後2時間までの尿回数あるいは体重変化が一助となる。目安：尿回数が3回未満。体重が2kg増量など

day2以降、飲水困難であれば積極的に補液を行う。

腎機能の評価は血清Creを用いるのが一般的。特に初回サイクルは1週間以内に確認するのが望ましい。